

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。 4 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。
-------------------	---	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 () 月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
充 1 実進 路指 導の	○進路実現のための系統的な指導方法の充実	○進路実現100%を裏打する安定した指導方法が確立・定着しつつある。 ○多様な進路希望の中で第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。	○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、2年次末までの進路希望未決定者10%以下。 ○第1志望への進路希望を実現している。	○進路面談や進路セミナーなどの進路学習を学年団との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○個別面談の充実と1クラス複数体制の確立。 ○進学希望者への指導内容を研究し、指導体制をつくる。				
	2 生徒指導の充実	○基本的な生活習慣とマナーの定着 ○豊かな人間関係づくりの推進 ○生徒会活動の充実	○服装頭髪再検査者数は前年に比べやや増加傾向であり、身なりに対する規範意識の育成が必要である。再検査者数は1クラス平均10人である。 ○携帯電話等による小さなトラブルが起きている。友人とのメールのやり取りで不安感等を感じる生徒も多い。 ○部活動全員加入は昨年度末で達成できている。部活動や執行部の活動をとおしての地域交流やボランティア活動が望まれる。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的な生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。 ○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をする事の重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身についている。 ○部活動全員加入を継続し部活動をとおして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の自主的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○全校朝会や服装頭髪検査の実施による校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭、地域との連携を密にとり、生活環境を整える。 ○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚やほこりを持てるよう学校祭その他の行事を企画する。 ○部活動を途中で変わる生徒への指導を徹底する。 ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。			
	3 人権 充保 健 実 教 育・ 健 育	○個を大切に した教育環境の改善	○一人ひとりを理解し支援する方策が教師により様々であり、効果が十分に表れていない。	○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。	○授業および教育環境のユニバーサルデザイン化を図る。			
4 学習指導の充実	○基礎学力の向上	○ワッツ検定全教科の初級合格率は1年末で24%、2年末42%であった。3年末100%は達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均43分、30分未満の者が57%である。家庭学習が習慣化する必要がある。	○ワッツ検定全教科の初級合格率を1年末で40%、2年末で60%に近づけ、3年末で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家庭学習が習慣化されている。	○リスタート学習・ワッツ検定の進捗状況を検証し、内容を見直すと共に活用を促進する。 ○学年団と教科担当との連携を密にする。				
	○学習指導の改善	○生徒の実態を踏まえた授業の工夫がなされているが、苦手意識がぬぐいきれず一層の学ぶ意欲が求められる。	○授業をとおして生徒自身が成長していることを実感し、学ぶ喜びを感じている。	○生徒が主体的・協働的に学ぶ授業の実践を促進する。 ○公開授業や研究授業月間を活用して、学習指導のあり方についての情報を共有する。				
5 つ づ か れ た 学 校 実 施	○地域と連携した学校づくりの推進	○「ジオパーク1,2」での学習をとおして岩美町の関係者や専門家の協力を得た学習が展開できた。生徒の側からの働きかけや、その他学校からの発信やPRは充実させる必要がある。	○生徒が地域と連携し貢献する活動に意欲的に取り組んでいる。 ○感謝と支え合いの心を持って、地域に貢献していこうとする精神が育っている。	○「ジオパーク3」での活動において、地域連携の方策を研究する。 ○岩美高生が学校外の場で提言、発表等を行う機会を作る。 ○ジオパークの活動を、総合的な学習の時間で引き継ぐカリキュラムを編成する。				

評価基準 A: 十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%程度] C: 変化の兆し [60%程度] D: まだ不十分 [40%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]